

令和6年度 西米良村立 村所小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン 地域に根付く「菊池の精神」を背景に、「あたたかい関わり」と「見届け」を基盤とし、一人一人の個性を認め、伸ばし、望ましい行動を強化するとともに、児童が自分の成長を実感できる教育を学校、家庭、地域が一体となって推進する。

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

評価項目	重点指導項目	方策・手立て	自己評価			学校関係者評価		改善策等
			評価	成果と課題	成果指標	評価	意見	
1 確かな学力の定着	(1) 日常的な授業改善	①学力テスト結果分析から、本校に求められている力（情報を整理・選択する力、論理的に説明する力など）を意識して授業する。※「令和6年度 各学年課題による対策表」の活用 ②「西米良授業スタンダードモデル」、西米良授業チェック表」を授業の根幹に、定期的な教師の自己評価を実施し授業改善に努める。 ③授業では、補充・発展の時間の設定と毎時の目標達成に努める。 ④下位層の児童の理解度を高めるため、中学校兼務教師（5・6年算数）と連携し少人数指導など学習形態を工夫する。また、中学校教諭による乗り入れ授業（5・6年外国語、3～6年音楽、6年理科）や体育専科等、専門性を生かした授業を実践する。	3. 1 (B)	①参観日に学力テスト分析結果を保護者に知らせるとともに、日々の授業の中で改善点に取り組んできた。 ②③主題研究とリンクさせながら、複線型の授業改善やコネクト学習を中心に研究を重ねてきた。 ④中学校教員の専門性を生かした教科指導を取り入れるとともに、担任と兼務講師で役割分担を行い、下位層の児童の個別指導に努めてきた。	※児童「先生は、わかりやすく教えてくれますか」◎70%、○30% ※児童「宿題を忘れずにしていますか」◎67%、○33%	3 (B)	○学習内容の復習に取り組みせ、学習内容の定着を図ってほしい。	①②③「ひなたの学び」を推進し、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を推進していきたい。また、次年度も複線型の授業、コネクト学習の共通実践を図り、補充・発展の時間確保に努める。 ④中学校の職員にも協力いただき、専門性を生かした指導を今後も推進していきたい。
	(2) ICTの効果的活用	①視覚的でわかりやすい授業を実施するとともに、1単位時間におけるICTの効率的・効果的な活用のもと、確実な学びの定着に努める。 ②ICT支援員の活用及び教諭同士のOJTを推進し、教諭のICTスキルの向上を図る。 ③小中連携した研究における共通理解・共通実践を図る。（県ICT活用先進校の指定） ④個別最適化の学習に向け、授業や家庭でのAIドリルの積極的・効果的な活用を図る。欠席児童への学びを保障するオンライン授業を行う。※AIドリルの時間（朝の活動、週4回）	3. 3 (A)	①9月の小中合同研修で社会科の代表授業をしたり、研究公開で、国語科・算数科の複線型の授業実践を行ったりしながら、研修を深めてきた。 ②ICTスキルの向上のために、研究主任を中心として2～3年目の教員が中心となり、OJTタイムで教え合ったりすることで、スキルの向上に繋げることができた。 ③相互参観授業週間を設定したり、研究公開に向けての模擬授業等を小中合同で行ったりしながら、実践的に研究を推進してきた。 ④習熟のために授業の後半や朝自習の時間、家庭学習にAIドリルやAI音読を位置付け取り組んできた。	※児童「タブレットは勉強の役に立っていますか」◎72%、○28% ※保護者「タブレットなどの機器を活用しながら、教師は分かりやすい授業づくりに取り組んでいる。」◎85%、○15%		○ICTスキルの向上と合わせて、紙面に書く力、文章力の向上に向けての取組も進めてほしい。	①②③AIドリルに取り組むことや児童同士の教え合いを通して、学習内容の定着を図ってきたい。 ④児童に合ったプリント等を活用して個別に指導する機会を設け、確実な学びの定着を図る。
	(3) 望ましい学習習慣と態度を身に付けるための支援	①学習指導部提案による共通実践事項の徹底を図る。（学習態度、学習用具、教室設営、板書、「声のものさし」等） ②家庭・保育園・中学校及び関係機関と連携し、個に応じた指導を行う。	2. 8 (B)	①年度当初に学習指導部提案の共通実践事項を全体で共通理解し、児童が落ち着いて学習できるように努めた。 ②配慮の必要な児童の指導に当たっては、るびなす支援学校、高鍋東中、妻北小の担当にも協力いただくなど、関係機関とも連携して指導に当たった。また、ふたば園、西米良中学校とも情報の共有を行った。	※児童「先生の話は聞いていますか」◎69%、○29%、△2% ※保護者「家庭では、望ましい生活習慣が身に付いている。」◎12%、○73%、△15%		○学習習慣については、先生たちが一丸となって、家庭と連携し、共通理解・共通実践に努めてほしい。	①②今年度推進してきた複線型の授業づくりを継続して行うなど共通実践し、しっかりと定着させていきたい。
	(4) 表現力の向上及び場の設定	①授業中における対話的な学習の充実と効果的な発問の工夫改善を図る。（「つぶやきによる発表」、「挙手させる発表」、「意図的指名」により全児童が発表） ②校内での発表及び外部（他校や地域のとの交流）の方への発表機会や場の設定により、各自の表現力を高める。	3. 0 (B)	①ICTを有効活用したことで、様々な表現方法で相手に自分の考えを伝える力が高まった。 ②発表広場やホイホイ通信、一句等、発表の機会を多く設けることができた。また宮日新聞投稿についても、各担任の方で子どもの作品を投稿し、掲載された。	①児童「友だちと話し合っただけで勉強していますか」◎56%、○39%、△5%		○今年度も、メラリンピックやイキイキ文化祭等、素晴らしい発表を見ることのできた。日常の学習の中で、文章表現力もより高めてほしい。	①②会話のトレーニングを行い、コミュニケーション能力を高めていきたい。また、集会、イキイキ文化祭、地域の方との授業等、様々な発表の機会を通して、表現力向上につなげていきたい。
	(5) 読書指導	①学校図書館の積極的な活用及び環境整備を行う。 ②学校と家庭をつなぐ「読書通帳」を作成・活用し、読書量の個人差を少なくする。 ③毎週月曜日の朝の時間及び家庭学習での「読書の日」、毎月23日の「あさよむ（親子読書）の日」及び「あさよむ号巡回」の利用など、全校統一した実施により、読書意欲の向上を図る。	3. 1 (B)	①本年度も新刊図書を購入し、児童の読書意欲を高めてきた。三財病院からの寄付により、たくさんの本を購入できた。 ②図書委員会を中心に、読書に対する意欲を高めるための取組を充実させ、児童の読書量が増えた。 ③「読書の日」の取組、あさよむ号の貸出（学級文庫）も積極的に行ってきた。	※保護者「家庭の日や本の貸出によって、読書への興味・関心は高まっている。」◎31%、○31%、△23%、×15%		○幅広いジャンルの本に親しみ、知識を広げてほしい。	①今後の新刊購入に伴い、図書室の片付け・整備を行って行く。 ②③家庭と連携して読書指導を行い、児童の読書意欲を高めていきたい。また、本年度から利用開始の電子図書館サービスをうまく活用しながら、さらに読書意欲を高めた。
	(6) 外国語活動・外国語の指導	①5・6年生においては、中学校教諭による全体指導及びALTとの連携に努め、指導の充実を図る。 ②1～4年生においては、学級担任がALTとの連携した授業を行い、苦手な児童への働きかけに努めるとともに、外国語に親しむ態度を培う。 ③評価テスト（5・6年）による学習内容の定着及び指導の充実を図る。	3. 1 (B)	①②中学校教諭の乗り入れや、ALTの効果的な活用により、児童は外国語の授業に対して主体的、意欲的に参加していた。 ③評価テストを定期的実施し、定着を確認し指導に生かしている。	※児童「外国語の勉強は好きですか」◎38%、○51%、△8%、×3%		○外国語は、これからの社会でより必要になってくるものである。	①②今年度と同様に、中学校教員やALTの活用を積極的に行っていく。
(1) 生徒指導の充実及びいじめ・不登校防止と早期対応	①生徒指導の三機能（自己決定の場と自己存在感を与え、共感的人間関係を構築）を生かした学級経営や授業改善に向けて、「自己指導能力を育成を目指した授業づくりの視点表」を定期的に活用及び自己評価し、意識付けを図る。 ②常在危機意識をもち、いじめの未然防止及び早期発見に向けた組織的な取組に努める。（教育相談、アンケート調査、いじめ不登校対策委員会、家庭や児童クラブ、メラスポ、スポ少等との連携強化と情報共有） ③「いじめ防止基本方針」に基づいた共通実践の徹底を図る。	3. 4 (A)	①常に生徒指導の三機能を念頭において学級経営を行うように心掛けてきた。 ②③アンケート、教員相談を計画的に実施することができた。 また、かがやき委員会（いじめ・不登校等についての話し合い）で共通理解を図ることができた。	※児童「学校は楽しいですか」◎57%、○39%、△4% ※保護者「学校や学級での取組によって、いじめや不登校の早期発見、未然防止につながっている。」◎46%、○50%、△4%	○これからも子どもたちが、楽しい学校と思えるようになることよい。大切な子ども達を、村民としても見守っていききたい。	①②③いじめや不登校等の問題については、今後も職員で共有しながら対応に当たりたい。また児童クラブ・メラスポ・スポ少等との情報の共有を図り、早期発見・早期解決に努める。		

令和6年度 西米良村立 村所小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン 地域に根付く「菊池の精神」を背景に、「あたたかい関わり」と「見届け」を基盤とし、一人一人の個性を認め、伸ばし、望ましい行動を強化するとともに、児童が自分の成長を実感できる教育を学校、家庭、地域が一体となって推進する。

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

評価項目	重点指導項目	方策・手立て	自己評価			学校関係者評価		改善策等
			評価	成果と課題	成果指標	評価	意見	
2 豊かな心（自己指導能力）の育成	(2) 個性を認め、適切な支援の実施	①スクールワイドPBS（児童のできた！を引き出す積極的な行動支援の推進）の考え方に基づいた集団や個への関わり方及び校内支援体制の充実を図る。 ②特別支援教育の視点を踏まえた個別指導の充実を図る。 ③「個別の指導計画」や家庭と連携した「個別の教育支援計画」の整理と活用を図る。	3. 1 (B)	①②外部講師を招いて、児童の支援方法等について助言をいただいた。今後も、エリアコーディネーターやチーフコーディネーターの積極的な活用を図っていききたい。 ③「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」については、長期休業中に作成の時間を設け、記録を残してきた。年度末に向けて、整備したい。	※児童「先生からよくほめられますか」◎ 37%、○54%、△7%、×2%	3 (B)	○これから一人一人の子どものよさを伸ばすために尽力いただきたい。	①②③④配慮の必要な児童への対応については、長期休業中の研修や支援訪問を積極的に実施していきたい。
	(3) 本活指	①生活指導部提案による生徒指導年間計画による指導の徹底（習慣形成、児童理解、教育相談、安全指導、環境美化、勤労奉仕）を図る。 ②「村所小学校よいこの1日」に基づいた具体的指導の充実を図る。 ③保小中一貫教育連携会議による「あいさつ運動」における主体的な取組と評価（児童、保護者、地域）に努める。※「プラスワンあいさつ運動」の徹底	3. 1 (B)	①②年度当初に生徒指導面の共通理解を図るとともに、日々の学校生活全般でアンテナを張り巡らせながら、児童が落ち着いて学校生活を送ることができるように心掛けた。 ③保小中での取組として、メディアコントロールについて各学年に実態に応じた指導を進めてきた。	※児童「うちの外や登下校中、会った人にあいさつをしていますか」◎ 74%、○22% △4%		○村民としても、子ども達に積極的に声掛けをしていきたい。	①②③基本的な生活習慣の定着を目指して、今後もきめ細かい指導をしていきたい。 ②「村所小学校よいこの1日」についても、常に意識して生活できるように声掛けを行っていく。
	(4) 安全防	①「自分の命は自分で守る」「気付き考え行動する」の合言葉による意識付けと集会での全体指導、日常の学級での具体的指導に努める。 ②関係機関や地域と連携した安全教育及び防災教育の充実を図る。（警察や役場、県土木事務所、消防団等）	3. 2 (A)	①②災害に応じた避難訓練を実施することができた。村内外の諸関係機関に協力いただきながら、安全・防災教育の充実を努めてきた。	※児童「道路では車をよく見て、歩いていますか」◎ 74%、○22%、△2%、×2%		○大切な命を守るために、継続的な安全指導が大切である。	①②今後も、関係機関（警察・役場・県土木事務所等）との連携をより深め、常在危機意識をもって指導に当たっていく。
	(5) 児童性を生かした活動の充実	①児童の上級生のリーダーシップを図るとともに、児童に達成感を味わわせる日常的な取組の充実を図る。（登校班、清掃、係活動、朝ボラなど） ②縦のつながりのある活動や児童の企画力・主体性を生かした各委員会での取組の充実を図る。※「みんなでつくる学校」の具現化を目指す。	3. 0 (B)	①朝のボランティア活動の推進について、声掛けを行ってきた。 ②縦割りグループによる体力作りの活動や清掃活動、メラリンピックでの取組等、上級生が主体となって活動する場を多く設定してきた。	①※6年「ボランティアをしていますか」◎20%、○28%、△48%、×4%		○ボランティアなど、子ども達が自主的に活動できるように声掛けをしてほしい。	①②子ども達が縦のつながりを大切にし、上学年がリーダー性を発揮できる場を、多く設けていきたい。
	(1) 規則正しい生活の指導	①学校保健委員会を核に家庭と連携した取組（メディアや食生活や生活習慣など）に努める。 ②学校歯科医や家庭と連携した歯磨き指導の充実（むし歯治療率向上）に努める。 ③養護教諭によるチームティーチングによる授業を実施するとともに、今後も家庭と連携し日々のきめ細かな保健指導に努める。 ④新型コロナウイルス感染拡大防止による感染症対策に努める。	2. 9 (B)	①学校保健委員会で、睡眠や性教育についての題材を取り上げ、保護者にその必要性について考えてもらうことができた。 ②各学年に合わせた歯科指導を学校歯科医が行ってくださったことで、歯に対する意識向上につながっている。 ③性教育や宿泊学習事前指導等に養護教諭もT.T.で積極的に入ったり、保健指導に努めたりしてきた。 ④年間を通して継続的に手洗い・うがい等について指導を継続し、体調管理に努めてきた。	※保護者「保健指導や健康診断、健康だより等による家庭との連携によって、児童の保健・安全への関心を高めることにつながっている。」◎58%、○42%		○保健に関する様々な取組を学校で行っていて、ありがたい。	①学校保健委員会を核に、家庭と連携した取組（児童の実態を基にした健康課題）に努める。 ②感染症流行時期には、手洗い・うがいの継続的な呼びかけを行い、対策を行う。
3 たくましい体づくりの育成（自己健康管理能力）	(2) 食育の推進	①地産地消や創意工夫ある献立づくりに努めるとともに、残食率低下を目指した給食指導の充実を図る。 ②栄養教諭とのチームティーチングによる授業を実施し、食への関心を高めるとともに、はしの持ち方など食事マナーの向上に努める。	3. 1 (B)	①②学級担任が児童の実態を把握し、実態に合わせた共通した給食指導（量の調整等）により、残食量を減らすことができた。また栄養教諭と連携した授業や給食指導により、旬の食材や行事食についてや感謝の気持ちを高める指導ができた。	※保護者「西米良の食材を取り入れ、メニューの工夫や、給食だよりの発行、掲示物による啓発等によって、望ましい食習慣の育成につながっている。」◎81%、○19%	3 (B)	○地産地消の取組がたいへんありがたい。	①地産地消や創意工夫ある献立づくりに努めるとともに、残食率低下を目指した給食指導の充実を図る。 ②栄養教諭とのチームティーチングによる授業を実施し、食への関心を高める。
	(3) 基礎体力向上	①立腰指導の徹底を図る。 ②体力テストDE段階の割合の減少を目指し、「体力向上プラン」に基づいた教科体育の充実（一人一人の運動量を確保）を図る。※「握力」「長座体前屈」「ボール投げ」を教科学習及び日常運動の中で重点的に指導する。※個に応じた支援を家庭と連携しながら図る。	3. 0 (B)	①学校全体で共通理解のもと立腰指導に取り組むことができています。 ②スクールスポーツプランをもとに、課題に応じた活動を授業や体力向上の時間に取り組むことができた。	※児童「運動をすることは好きですか」◎ 69%、○22%、△7%、×2%		○元気いっぴいの子ども達に育てて欲しい。	②③今後も運動の日常化を目指す具体的な取組が必要である。
	(1) 学校と地域の関係・団体との連携強化	①ふたば園、中学校、関係団体等との連絡を密に行い、連携協働に努める。（PTA、公共機関、社会福祉協議会、学校運営協議会、学習支援ボランティア、社会教育関係団体、民生委員・児童委員、人権擁護委員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなど） ②地域の中の学校として、学校運営協議会による学校経営方針の承認及び協力支援の充実を図る。 ③豊富な地域資源を活かしたキャリア教育の充実 ※「ふるさと西米良学」の活用 ④教師の人権教育やコンプライアンス研修の充実を図る。	3. 3 (A)	①担当や管理職が、随時、連絡を取り合いながら情報共有に努めてきた。 ②学校運営協議会、学校保健委員会等の機会や学校便りを活用して、学校の経営方針を理解いただき、地域との連携協働に努めてきた。 ③本年度は、百菜屋下の農園をお借りして、さつまいも等の収穫ができた。茶摘みや稲作体験（5・6年生）も行うことができた。 ④夏季・冬季休業中にコンプライアンス研修を行った。職員不祥事等は、コンプライアンス通信等を活用して、職員へ伝達するようになった。	※保護者「教職員は、地域行事やPTA行事に積極的に参加し、交流や連携を図っている。」◎73%、○19%、△8%		○今後も関係機関との連携を密にして、情報共有に努めてほしい。	①②③④村内外の外部機関、PTAや学校運営協議会、学習支援ボランティアなどとの連携・協働に努めていく。また、SSWやSC等の積極的な活用を継続する。 ④職員のコンプライアンス意識を継続するように、これまでの取組をさらに充実させる。
(2) 家庭や地域との積極的な連携	①保護者・地域の方と積極的に関わるとともに、個人情報の取り扱いに注意し、情報発信・情報収集に努めていく。 ○村所小ホームページの充実 ※R3実績98,754件 ※R4実績206,000件 ※R5実績200,785件 ○各通信の充実(学級・学校通信、生徒指導・保健・給食通信など) ②「マチコミメール」の効果的活用	3. 2 (A)	①ホームページアクセス数はすでに260,000件を超えている。R7.1.23(261,242件) R6.2.19(222,389件) ②学校だよりやホームページ、マチコミメール、学級通信等で積極的に情報を発信した。また、学級通信や電話連絡等で保護者との情報の共有ができた。	※保護者「学校だより(おがたま)、学級通信、通知表、学校のホームページなどの、学校から情報提供がなされている。」◎73%、○27%	○子ども達と顔を合わせられるので、バランスが取れている。今後も臨機応変に学校と繋がっていききたい。	①②③今後も、ホームページや学校便り等を活用して、学校の情報の発信に努めていく。		